

石	神	井	消	防	署
石	神	井	消	防	团
石	神	井	火	防	災
石	神	井	災	害	予
石	神	井	防	火	管
石	神	井	理	研	究

令和5.8

「9月1日は防災の日」

参加しよう もしものための 防災訓練

作者 **小竹 亮輔**さん
(台東区在学)

大きな地震が起きた時、「**自らの生命は自らが守る**」、そして「**自身が無事であったら、同じ場所に居合わせた人のことを気づかう**」という「自助・共助」の意識のもと、「減災」を目的とした事前対策について考えましょう。



地域のコミュニティ

L型道具
 回しスクリュー
 フォール
 回しスクリュー
 フォール

大地震が発生すると、多くの火災や家屋倒壊が発生して、消防隊だけでは対応しきれない可能性があります。そのため、普段から近隣の方と挨拶等コミュニケーションを図ることで、お互い助け合う「共助」の関係を築いておきましょう。

覧 (裏面もごらんください)

[illegible]

関東大震災から100年

大正12年(1923年)9月1日11時58分に、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9と推定される大正関東地震(関東大震災)が発生しました。この地震による死者・行方不明者は約10万5千人、全壊・全焼・流出家屋は29万3千棟にのぼり、日本の災害史上、最大規模の被害をもたらしました。

なお、東京市*では、全体の死者・行方不明者の65%にあたる6万9千人が犠牲となり、そのうち9割が焼死でした。

他の地震と比較すると次の表のとおりです。過去の大地震を振り返り、今後の地震に備えましょう。

※現在の東京23区の千代田・中央・港・新宿・文京・台東・墨田・江東の全部または一部。東京市の面積は、現在の東京23区の面積の約1/8。

	関東大震災	阪神・淡路大震災	東日本大震災
発生年月日	1923年(大正12年) 9月1日土曜日 午前11時58分	1995年(平成7年) 1月17日火曜日 午前5時46分	2011年(平成23年) 3月11日金曜日 午後2時46分
地震の規模	マグニチュードM7.9	マグニチュードM7.3	モーメントマグニチュードMw9.0
死者・行方不明者	約10万5千人(約9割が焼死)	約5,500人(約7割が窒息・圧死)	約18,000人(約9割が溺死)
震災関連死	—	約900人	約3,800人
全壊・全焼住家	約29万棟	約11万棟	約12万棟
経済被害	約55億円	約9兆6千億円	約16兆9千億円
当時の国家予算	約14億円	約73兆円	約92兆円

※出典：内閣府HP「関東大震災100年特設ページ」<https://www.bousai.go.jp/kantou100/>をもとに東京消防庁にて加工。

今後発生が危惧される地震

【首都直下地震】発生確率：30年以内に約70%

➡ 東京都内で予想される最大震度：7

【南海トラフ地震】発生確率：30年以内に70～80%

➡ 東京都内で予想される最大震度：6弱

※出典：東京都防災HP <https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/taisaku/torikumi/1000902/1021571.html> 等をもとに東京消防庁にて作成。



地震が起きたら！

地震だ！ まず身の安全

地震が発生したときに一番大切なことは身を守ることです。揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで、身の安全を最優先に行動することが大切です。

落ち着いて 火の元確認 初期消火

火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をしましょう。出火した時は、落ち着いて消火しましょう。



火災や津波 確かな避難

地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難しましょう。また、沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難しましょう。

詳しくは東京消防庁ホームページへ

東京消防

検索



東京消防庁ホームページや
東京消防庁公式アプリへは
こちらからアクセスできます。



問合せ先

石神井消防署 (3995)0119
関町消防出張所 (3920)0119
大泉消防出張所 (3925)0119
大泉学園消防出張所 (3978)0119
石神井公園消防出張所 (3904)0119